

透析患者に「大丈夫ですか？」の声掛けは適切か？

長崎腎病院¹⁾、長崎腎クリニック²⁾

○白井美千代¹⁾、熊博和¹⁾、久保純子¹⁾、丸山祐子¹⁾、橋口純一郎²⁾、原田孝司¹⁾、船越哲¹⁾

【はじめに】

透析治療中の患者は血圧低下など高頻度に状態が変化し、その際の言語の選び方は慎重にならねばならない。

【目的】

「大丈夫ですか？」の声掛けについて調査したので報告する。

【方法】

透析室勤務の看護師 36 名と臨床工学技士 12 名、外来維持透析患者 55 名を対象に、アンケート方式で声掛けに対する意識調査を実施、患者にはうつ病スクリーニングテスト (CES-D) も合わせて実施した。

【結果】

「大丈夫ですか？」は、スタッフからは「使ってよいと思う・使ってよい時もある」のポジティブな回答が 67%であった。患者からも「気遣ってもらい嬉しい」が 62%と、両者に乖離はなかったが、一方で「大丈夫ではない・答えようがなく困った」などが 38%を占めた。また、CES-D で調査した患者側のうつ傾向とネガティブなとらえ方は有意な ($P < 0.05$) 関係性が認められた。

【考察】

大丈夫ではない状態の患者に「大丈夫ですか？」の声掛けは慎重におこなう必要があると思われる。